

柴又地域学校改築懇談会ニュース

※本ニュースでの「柴又地域の学校」は、
柴又小学校、東柴又小学校、桜道中学校を指します。

令和6年4月発行 第4号
発行：柴又地域学校改築懇談会事務局

令和6年3月28日（木）に第4回を開催しました。区による柴又地域の人口や児童数の推移、学校適正規模についての説明の後、望ましい学級数をテーマに意見交換を行いました。

※区が考える建て替えの手法（柴又地域一連の学校改築）

柴又小学校又は東柴又小学校のいずれかに、両校の児童が通える規模の新校舎を整備し、工事期間中はもう一方の学校を工事期間中の仮校舎として利用する。さらに、桜道中学校を改築する際には、いずれか一方の小学校の校舎を仮校舎として活用し、その間に桜道中学校の改築を行うもの

柴又地域における人口・児童数の推移について

- ・平成23年と令和5年の人口推移を比較すると、就学前の年代の減少率が大きい一方で、50代や80代以上の年代は増加率が大きい。また、柴又地域の人口構成を区内全域と比較すると、就学前の年代と30・40代の減少率が大きい。
- ・1歳から6歳までの住民登録者数は減少しており、このままの人数で推移すると、東柴又小学校では35人で単学級になる学年が発生し、区が考える適正学級数である12学級を将来下回る可能性がある。
- ・未就学児及び入学後の児童は、若干の転出（減少）傾向である。

柴又小学校、東柴又小学校を統合した場合の想定規模について

- ・令和8年度に仮校舎で運営することを想定した場合、各学年3学級で合計18学級となる見込みである。
- ・柴又小学校又は東柴又小学校のいずれかの学校を仮校舎とする場合、現在の校舎だけでは教室数が不足するため仮校舎の増築が必要となるが、小規模な仮校舎のため校庭全てを仮校舎で利用することはない。
- ・東柴又小学校では、令和11年度の児童数が1年生で35人の単学級となり、2年生から5年生の各学年でも転出などが発生すると単学級になる可能性がある。
- ・柴又小学校と東柴又小学校を統合することで各学年が3学級の児童数になり、区が望ましいとする18学級を維持できる。

意見（要旨）

- ・小学校を統合した場合、現在より1学級当たりの児童数が増えて職員の目が行き届きやすいなどの少人数学習の良さが損なわれる。
 - ・小学校を統合すると、18学級になることで教職員の数が増えてイベントなどの負担が軽減できる。
 - ・1学年あたりの学級数が増えることにより、児童への配慮や運用の幅が増える。
 - ・改築すると人気が出るのではないかと。受入児童の人数は大丈夫なのか。
- （区）柴又・東柴又小学校の通学区域内児童に加え、通学区域外の児童が入る余裕も持っている。

懇談会資料は以下の区の公式ホームページでご覧いただけます。
[トップページ](#)>[子育て・教育](#)>[教育・学校](#)>[小学校・中学校](#)>[学校改築事業](#)>
柴又地域（柴又小学校、東柴又小学校、桜道中学校）の学校改築について



次回の学校改築懇談会（予定）

令和6年4月25日（木）午後7時 柴又学び交流館 3階レクリエーションホール

懇談会の傍聴を希望される方は、QRコードからお申込みください。



柴又地域における学校改築に関するお問い合わせ

【事務局】葛飾区施設部 施設管理課 電話：03-5654-8138（直通）